

「企業理念」実現のために、「考動」します

JR西日本の経営の基本は、福知山線列車事故を機に全役員・社員でつくり上げた「企業理念」と「安全憲章」にあります。「企業理念」「安全憲章」のもと、全役員・社員が心をひとつにし、安全を最優先する企業風土を構築するための努力を積み重ね、お客様、社会、株主、取引先の皆様など、JR西日本グループを支えるあらゆる関係者の方々のご期待に応え、将来にわたる持続的発展を図っていきます。そのために、グループが一体となって、自ら考え、行動する(=「考動」)ことを継続していきます。

JR西日本 企業理念

1. 私たちは、お客様のかけがえない尊い命をお預かりしている責任を自覚し、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける鉄道を築き上げます。
2. 私たちは、鉄道事業を核に、お客様の暮らしをサポートし、将来にわたり持続的な発展を図ることにより、お客様、株主、社員とその家族の期待に応えます。
3. 私たちは、お客様との出会いを大切に、お客様の視点で考え、お客様に満足いただける快適なサービスを提供します。
4. 私たちは、グループ会社とともに、日々の研鑽により技術・技能を高め、常に品質の向上を図ります。
5. 私たちは、相互に理解を深めるとともに、一人ひとりを尊重し、働きがいと誇りの持てる企業づくりを進めます。
6. 私たちは、法令の精神に則り、誠実かつ公正に行動するとともに、企業倫理の向上に努めることにより、地域、社会から信頼される企業となることを目指します。

安全憲章

私たちは、2005年4月25日に発生させた列車事故を決して忘れず、お客様のかけがえない尊い命をお預かりしている責任を自覚し、安全の確保こそ最大の使命であるとの決意のもと、安全憲章を定めます。

1. 安全の確保は、規程の理解と遵守、執務の厳正および技術・技能の向上にはじまり、不断の努力によって築きあげられる。
2. 安全の確保に最も大切な行動は、基本動作の実行、確認の励行および連絡の徹底である。
3. 安全の確保のためには、組織や職責をこえて一致協力しなければならない。
4. 判断に迷ったときは、最も安全と認められる行動をとらなければならない。
5. 事故が発生した場合には、併発事故の阻止とお客様の救護がすべてに優先する。

「企業理念」「安全憲章」の制定

福知山線列車事故を機に、安全を最優先する企業風土を構築するため、当社のめざすべき方向性、価値観について議論を重ね、会社発足直後に制定した「経営理念」を見直し、2006年3月に「企業理念」を制定しました。

あわせて、安全に関する具体的な行動指針である「安全憲章」についても、事故を決して忘れることなく、最大の使命である安全の確保に向けて、役員・社員一人ひとりが具体的な行動を起こせるよう見直しを行い、新たな「安全憲章」を制定しました。



社長を委員長としてCSRを推進しています

経営課題としてのCSRを一層推進するため、2006年6月から、社長を委員長とし、常勤取締役、常勤監査役、本社内関係部門長で構成するCSR推進委員会を開催するとともに、事務局としてCSR考動推進室を設置しています。

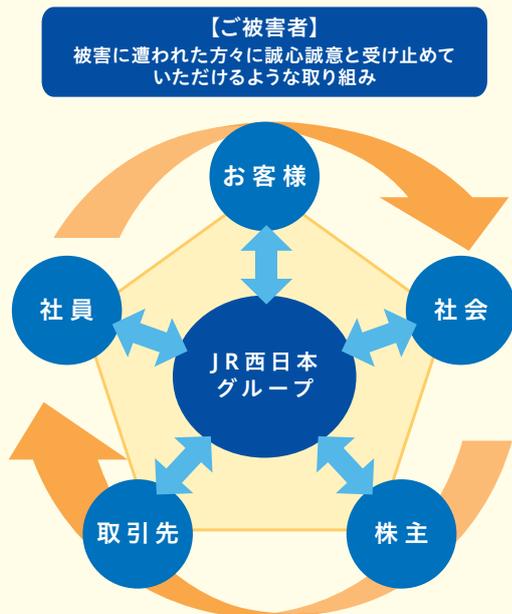
CSR推進委員会では各分野の取り組みの現状および課題につい

て、CSRの観点から包括的に検証し、必要な改善を図っています。なお、「安全」の取り組みは、事業の根幹をなす最重要課題であり、社長を最高責任者とし、安全に関わる業務を統括管理する安全統括管理者をはじめ、運転や乗務員指導などの管理者を明確化した安全管理体制のなかで推進しています。

用語解説 ●*1 CSR(Corporate Social Responsibility): 会社として、社会の要請に耳を傾け、応えていく取り組み。一般に「企業の社会的責任」と訳します。

ステークホルダー*2の皆様とJR西日本グループとの関係

社員が働きがいと誇りを持って高品質なサービスを提供することが、お客様の安心・信頼・満足そして、西日本地域の活性化への貢献につながります。そのなかで得られた収益で事業の持続可能性を確保し、株主、取引先の皆様との良好な関係を築いていきます。



【ご被害者】
被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めて
いただけるような取り組み

「現場起点の考動」を通じたCSRの推進

「企業理念」に掲げた価値観を支え、育てていくため、世の中の要請に照らして8つの重点分野を定め、ステークホルダーの皆様へ提供する価値の向上に取り組んでいます。

「企業理念」実現のためには、あらゆる職場で働くJR西日本グループの全員がお客様を常に意識し、現場*3で起こっているさまざまな課題を共有したうえで、スピード感を持って自発的にかつ連携して解決に取り組むことが大切だと考えています。こうした「現場起点の考動」を一人ひとりの行動原則として定着させることを通じて、CSRを推進していきます。



用語解説

- *2 ステークホルダー (Stakeholder): 企業の事業活動などに対して直接的または間接的に利害が生じる関係者のこと
- *3 現場: 安全やサービスをはじめとする価値が現実にも生み出されている場所や場面(グループ会社・協力会社を含む)
- *4 PDCA: 企業が行う活動を、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)という観点から、継続的に改善する手法

CONTENTS

- P.01 JR西日本のCSR
- P.03 トップコミットメント
～JR西日本グループ中期経営計画2017の達成に向けて～
- P.09 JR西日本グループの事業活動
～「地域共生企業」をめざす私たちの仕事～
- P.11 福知山線列車事故について
- P.15 コーポレート・ガバナンス
- P.17 特集: 鉄道のしくみ
～安全への取り組みのご理解のために～

- P.21 8分野の2012年度活動報告
および2013年度重点取り組み計画

P.25 安全

P.31 CS(お客様満足)

P.35 地域との共生

P.39 人材・働きがい

<社会の一員としての責任>

P.43 地球環境

P.47 コンプライアンス 資材調達・人権

P.51 危機管理 情報セキュリティ

P.53 ディスクロージャー

P.55 財務ハイライト(連結)

P.57 第三者意見

P.58 ご意見を受けて

編集方針

本レポートでは、JR西日本グループの考えや現状をステークホルダーの皆様にご理解いただくため、JR西日本グループが一体となって推進している「考動」を、CSR重点8分野に基づいてご報告しています。冒頭では、CSRの考え方、トップコミットメントなどを、21ページ以降では、各分野の具体的な取り組みをPDCA*4に即してご報告しています。

対象範囲 原則としてJR西日本単体(グループとして取り組んでいる事柄にはグループ会社を含めています。)

対象期間 原則として2012年4月～2013年3月

参考とした 環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン第3版(G3)」

企業情報を冊子などでご紹介しています

CSRレポート



鉄道安全報告書



アニュアルレポート



『ファクトシート』『会社概要』『データで見るJR西日本』なども企業ホームページからご覧いただけます。

詳しくはWEBで [JR西日本 発行冊子](#) [検索](#)